

議事録(大要)

令和7年(2025年)3月28日

於.吹田市水道部 第二別館 研修室

【出席者】 生川委員、尾崎委員、堀委員、松本委員、山野委員、上田委員、勝沼委員、澤田委員
鈴木委員、曾我委員、中村委員、吉田委員

【欠席者】 東委員、小椋委員、紙谷委員、高柳委員、田口委員

【傍聴者】 なし

議事

1 すいすいビジョン2029のアップデート骨子案について

事務局 定刻になりましたので、ただ今より第15次吹田市水道事業経営審議会第3回の会議を開催いただき
たいと思います。本日はあらかじめ、東委員、小椋委員、紙谷委員、高柳委員、田口委員から欠席のご
連絡をいただいております。それでは、会議に先立ちまして、会長からご挨拶をいただきます。

会長 (挨拶)

事務局 続きまして、水道事業管理者職務代理者 水道部長よりご挨拶申し上げます。

部長 (挨拶)

事務局 本日は、委員17名中、12名の出席により、過半数を超えたため、水道事業経営審議会の会議は成立
しました。

(傍聴希望者及び資料確認)

会長 それでは、議事に入りたいと思います。本審議会は、議事の公開が原則となっております。本日の傍聴
希望者はいらっしゃいませんが、あらかじめご承知おきください。

それでは、次第に沿って進めていきたいと思ひます。

1番「すいすいビジョン2029のアップデート骨子案について」、全9章からなる「すいすいビジョン」の
まずは第1章から第5章までを事務局から説明してください。

事務局 (第1章～第5章について説明)

会長 ただいま、第1章から第5章まで事務局から説明がありました。内容のボリュームが大きいとは思いますが、何かご意見、ご質問があればご発言をお願いします。いかがでしょうか。

委員 2029年までの計画を2035年までの計画にされるとのことですが、今後も人口減少に伴い、現場で作業する技術職員も減少していくと思いますので、技術職員の育成に関する考え方を示さなくて良いのか気になります。実際、建設業界でも人手が不足している中で、人材が一番根っこの部分だと思えます。人材に関して水道部としての方向性を示さなくて良いのか気になりましたので、よろしくお願いします。

会長 人材育成に関してご質問いただきましたが事務局いかがでしょうか。

事務局 人材については本市も危機感を持っており、特に技術職員をしっかりと育てる必要があると考えています。そこで、すいすいビジョン2029に基づき、理想となる技術職員像について水道部職員が話し合い、新規採用者及び異動者を対象に、10年間で育成することを目指した「現場力向上方針」を令和3年度に策定しました。翌令和4年度には、災害や事故発生時に現場の指揮をとるために必要な様々な能力をバランスよく身に着けるための研修計画も策定しました。今後もこれらに基づいて職員の育成に努めるとともに、適宜見直しができる体制を確保していきたいと考えております。

委員 お考えは正しいと思いますが、正直な話、技術職の確保において賃金の問題は避けて通れないと思います。賃金上昇が水道料金に影響を与えるのは事実ですが、技術職員の不足による供給不安定はそれ以上に深刻な問題です。米価が倍になったように、水道料金が急騰する可能性も否定できないと思います。教育や研修も重要ですが、担い手がいなくなることが一番の問題ですので、賃金面の対策も検討しなければ恐らく解決しないのではないのでしょうか。

会長 今のご意見に関して、事務局いかがでしょうか。

部長 水道部職員の給与は市職員と同様の条件となっておりますが、人口減少社会における職員、特に技術職員の確保は市全体の課題として認識しております。職員の給与に関する事項について、直接的にすいすいビジョンの中に書き込むことは難しいと思いますが、水道部としては水道の技術を持った職員育成に努め、人材確保については市全体で考えてまいります。

会 長 人材確保は全国的な問題だと思います。先般も、キャリア官僚の給料を大企業並みにするという報道もありました。以前はキャリア官僚を目指す学生が多くいましたが現在は減少傾向にあり、大手企業や外資系に人材が流出しています。吹田市はまだ応募がある方かと思いますが、地方では技術職を募集しても応募がなく人材不足が深刻化しています。給料水準を上げるには制度的な制約があり簡単ではないことから、大学や学生にとって魅力が薄れていることも事実としてあると思います。行政職と技術職で給与体系を分けることを検討するほか、学生へのPRも含め今後は展開していく必要があると思います。

他にご質問やご意見はありますでしょうか。

委 員 資料1の2枚目「1 アップデートのポイント」の②に「基本理念や基本方針を変更する状況には無い」と書かれていますが、本当にそうかと疑問を持っています。例えば、資料1の5枚目「第3章 取組と到達点」の「4.水道管の整備と管理の向上を」の「基幹管路の整備」の評価はAとなっており、「配水支管の整備」の評価もAとなっています。「到達点・成果」を見ると、「計画値を上回って整備しているため評価はA」となっています。一方、資料1の3枚目「4 事業の状況(類似団体との比較)」のレーダーチャートを見ると、管路の更新率は頑張っていますが、管路経年化率は類似団体に届いていない状況です。計画値は達成できたが、今後はもっとペースを上げる必要があるのか、その必要はないのかチェックが必要ではないかと思います。「基本理念や基本方針を変更する状況では無い」と簡単に片付けるのではなく、チェックを踏まえて、本当に変更しなくて良いのか、少し見直したほうが良いのかを考えていただいた上で、ビジョンのアップデートに当たっていただきたいと思います。

会 長 今のご意見に関して、事務局いかがでしょうか。

事 務 局 管路経年化率の偏差値が類似団体に比べて低いことを例に挙げていただき、これではまだ不十分ではないか、その上で基本理念と基本方針を見直すことも含めてチェックをしていく必要があるのではないかとのご意見をいただきました。

本市水道事業は令和9年(2027年)で、事業開始から100周年を迎えます。既存の管路を大事に使ってきた歴史があり、類似団体に比べて管路経年化率が高くなっておりませんが、この指標は法定耐用年数の40年を超過した管路の割合を示すものです。40年以内に水道管を取り替える必要があるといった趣旨で報道されることもありますが、現在、布設している最新の水道管は100年程度使用できると言われております。40年で取り替えると年間2.5%ペースでの更新が必要になりますが、本市では毎年1%ずつ取り替えることで実際の耐用年数内での運用ができるという考えのもと更新を行っています。また、管路の取替えには多額の費用が必要であることから、このようなサイクルで実施しており

ますが、現在はこの偏差値のように類似団体よりも管路経年化率が高いことから、1%ではなく1.2%程度で更新を実施してきております。その結果、全国に約100団体ある人口20万人以上の水道事業者の中で、管路経年化率がワースト2位だった本市ですが、料金値上げをさせていただき財源を確保して更新を続けることで、平成30年度では32だった偏差値が令和5年度には38に上がり、ワースト13位まで改善してきたところです。

基本方針につきましては、平成25年に国が出した「新水道ビジョン」と関連しております。新水道ビジョンでは、水道事業が目指す将来像が示されており、「安全」「強靱」「持続」の言葉が掲げられていますが、本市では吹田らしさを活かした市民に身近な水道事業運営を目指すべく「地域」を加えて4つの基本方針としております。新水道ビジョンが改定されていないことや、管路経年化率と関連がある「強靱」の部分についても目指す理想像と方向性に変わりはないと考えておりますので、基本理念及び基本方針を変更する必要はないと考えております。

ご指摘いただきました管路経年化率などにつきましては、しっかりと他事業者との比較をしながらチェックを図っていきたいと考えております。

委員 一例として管路経年化率を挙げましたが、他の項目も全てチェックする必要があると思います。チェックしていただいた上で、このままで良いのであれば、それをきっちり示していただきたいと思っています。管路経年化率に関して少し意見を言わせていただきますと、40年で更新する必要がないと考えているのであればこの指標を使う必要があるのでしょうか。管路経年化率を資料に掲載しておいて、この指標は当てにならないといった説明でしたが、説明方法としておかしいと思います。また、今入れ替える新しい管は100年程度使えるとのことですが、100年使用できる管はあくまで今取り替える新しい管です。昔から布設されている古い管は100年使用できません。メーカーが100年使用できると言っているGX管は何年前くらいから発売されていますか。

副会長 発売から20年もたっておらず、規格が制定されて15年程度かと思います。

委員 「経年化管路」は布設から40年以上が経過しており100年もたないと思いますので、今後どうするかもう少し具体的にチェックをされても良いのではないかと思います。また、先ほど事務局から説明がありましたように、どんどん更新するにはその分財源が必要となり水道料金にも影響するので、吹田市が考えるベストな更新ペースを市民の方に説明していただく必要があると思います。加えて、管を40年以上使用できるのであれば、具体的に何年使用できるのかについても説明する必要があると思いますし、管路経年化率を使わず、地盤の腐食性の有無のデータを出してまとめている事業者もあります。説明しやすいところだけを抽出して抽象的な話をするのではなく、更新の考え方や更新率の根拠を説明していただきたいと思います。繰り返しになりますが、管路経年化率以外の項目についても、今日

的な観点から見て本当に大丈夫なのかを1つ1つチェックをしていただき、結果として今のペースで大丈夫であれば、その旨示していただいた方が市民の方にとってわかりやすいと思いますので、よろしくをお願いします。

会 長 資料1の2枚目「1アップデートのポイント」の②の書き方の問題もあるかと思いますが、資料1の3枚目の左下にある基本理念「未来につなぐ 市民と育む 信頼のすいた水道」は変える必要がない、また基本方針「安全」「強靱」「持続」「地域」に関しても見直す必要はないというのが市の見解かと思えます。委員からのご指摘は、取組の評価指標の項目の見直しが必要かもしれない、設定している指標値の達成状況については基準値の設定そのものの妥当性を含め今日的な視点から検討する必要があるのではないかといった内容かと思いますが、よろしいでしょうか。

委 員 会長にまとめていただいたとおりです。先ほど、中間的なアップデートであるといった説明がありましたが、2029年までの計画を2035年までの計画に変えるわけですので、きちんと振り返りと評価をして、次どうするのかを判断できるようにする必要があります。先ほど申し上げたように、市だけが判断するのではなく、市民の方がなるべくわかるような形で提示していただくことをお願いしたいと思えます。第2部で言った方が良かったかもしれませんが、そのような思いで発言しています。よろしくをお願いします。

会 長 ありがとうございます。他にご質問やご意見はありますでしょうか。

委 員 冒頭の会長からの挨拶で、埼玉県八潮市における道路陥没事故により市民の生活に影響が出ているといったお話がありました。国から自治体に対してチェックをするよう指示を出したといったニュースも出ておりますし、一般の市民はこの件への関心は高いと思えます。先ほど、40年を基準とする指標についてのお話がありましたが、少し視点を変えてお聞きます。大型トラックやバスが常に走行している交通量が多い道路の下に水道管が入っている場合、交通量が少ない道路の下に入っている管より老朽度合いや傷みがひどいのではないかと思います。開発に伴う道路整備や建設時にはボーリング調査をすると思えます。このような場合、管への影響について考慮すると思えますが、何が影響するのか、こういった要素を考慮する必要があるのか教えていただければと思います。

会 長 今の件に関して、事務局いかがでしょうか。

事 務 局 経年管の更新は、予防保全的な考え方から計画を立てて更新し事故を減らすことを目的としています。更新する管の選定に当たりましては、今おっしゃられたような交通量が多い道路の下に布設されてい

る管であるかのほか、管種、継ぎ手、管の大きさ、管が布設されている土質状況、断水した際の周囲に与える影響、重要給水施設という災害時に市民の方が集まるような施設に接続する管路であるかなど様々な要素を考慮し優先順位をつけて選定しております。先ほどご指摘いただきました振り返りや効果検証も実施しており、管路経年化率としては横ばいですが事故の件数は下がってきておりますので、必要に応じてお示しできればと考えております。

会 長 他にご意見などはありますでしょうか。

委 員 広報戦略と苦情についてお伺いします。苦情は水道事業に対する理解不足や不安から来るものかと思いますが、原因を追及し適切に対処されていると思います。広報戦略には苦情についての記載があるのでしょうか。

会 長 広報戦略と苦情についてご質問いただきましたが、事務局いかがでしょうか。

事 務 局 苦情への対応は、広報戦略に基づいて実施しているのかといったご質問かと思います。水道部では、広報活動の目的と方向性を示し、戦略的に実施する方針として「広報コンパス5D」を令和3年度に策定しました。広報コンパス5Dでは苦情の対応について特に定めておりませんが、苦情等がございましたら引き続き適切な対応をとっていきたいと考えております。

会 長 今の件に関しまして、月当たりの苦情件数や内容、市としての対応内容などについて教えていただければと思いますがいかがでしょうか。

事 務 局 水が臭い、水が出ない、濁り水が出ているといった水質に関する内容ははじめ、様々な苦情をいただいております。いただいた苦情は、逐一情報を共有し改善に努めているところです。件数につきましては、手元に資料がございませんので、後ほど回答させていただきます。

会 長 その他ご質問等がありますでしょうか。

無いようでしたら、続いて、第6章から第9章までを事務局から説明してください。

事 務 局 (第6章～第9章について説明)

会 長 第6章から第9章までの内容について説明いただきましたが、先ほどの苦情件数について、事務局から回答をお願いします。

事務局 令和5年度は水質関係20件、工事関係24件、料金関係4件の計48件の苦情をいただきました。この数値を用いて算出した結果が、資料1の7枚目の右下の「水道事業に対する苦情対応割合 0.3件/1,000件」となっております。さらに、濁水発生時や事故時のような緊急性が高い情報につきましては、これまでもホームページやSNSにて発信しております。PFASに関する事などよくいただくご質問については、ホームページや広報誌「すいどうにゅーす」に掲載するなど多くの市民の皆様を知っていただけるように取り組んでおりますが、まだまだ市民の皆様には伝わっていないところもあると思いますので、「水道いどばた会議」など市民の皆様と双方向のコミュニケーションを図る取組も引き続き実施していきたいと考えております。

会長 ありがとうございます。それでは、第6章から第9章までの内容について、何かご意見ご質問あればご発言をお願いします。

委員 先ほどの説明等に出てくる「監査法人」について、どのように決められたのかと、具体的なお名前を教えてくださいませんか。

事務局 入札により決定した「EY 新日本有限責任監査法人」にすいすいビジョン2029のアップデート骨子案に対するレビューを委託しております。

会長 その他、ご質問等ありますでしょうか。

委員 2点意見させていただきます。

まず、別紙1の参考「主な取組内容」の表現が抽象的なのでもう少し具体化してはどうかと思います。例えば上から①水安全計画の運用、②水質監視の充実、③水道GLPの認定維持、④水源水質保全の取組と記載されていますが、水質監視の充実と言われても、今の取組内容や今後どうしていくのかといった考えが読み取れませんので、もっと具体的に示して欲しいと思います。一例を挙げましたが、他の取組も同様に具体的な記載がなければ計画期間終了時に達成・未達成の評価ができないと思います。加えて、別紙2の管理指標については、なるべく各取組に対して管理指標を設定し、取組状況が分かるような形で書いていただけたらと思います。

2点目は別紙3の左側に関して、基幹管路の耐震化・複線化・ループ化を年間2km、配水支管の更新・耐震化は年間8kmとの記載がありますが、吹田市としてこの数字が妥当だと思われるのであれば、きちんと説明していただきたいと思います。管路更新率の全国平均値が0.67%であるのに対し、吹田市は1.2%で更新していますが、古い管がかなり残っているとのことです。ブラックボックスにせ

ず、更新の考え方や根拠をきちんと示して、市民の方に判断していただくことが必要ではないかと思えます。ビジョンの完成形では、このような内容まで書けないかもしれませんが、審議会ではある程度は示していただければと思いますので、よろしくお願いします。

会 長 今のご意見について事務局いかがでしょうか。

事務局 1点目の取組内容の表現につきましては、現行ビジョンにおいてもこのような表現としております。冊子の本文には具体的な取組内容を記載し、実行計画であるアクションプランには、年度ごとにどのような取組を実施するのかといった、更に具体化した内容を記載しております。一方でご指摘のとおり、別紙1だけを見ても何をやるのかがよく分からない部分がありますので、表現の工夫について検討させていただきたいと思えます。

2点目の水道管路整備における年間の更新・耐震化延長(2km、8km)の妥当性につきましては、おっしゃるとおり、別紙3では妥当性がしっかり示せておりません。先ほど担当職員から説明しましたように様々な要素を加味し管路更新や耐震化する路線の優先順位付けを行っているほか、地震時の管路被害率の軽減も目標に算出しております。このような考え方の全てをビジョンに書き込むのは難しいですが、次回素案について議論いただく際には、本市の考え方もお示しし、妥当性についてご審議いただきたいと思っております。

会 長 他にご意見やご質問はありますでしょうか。

私から1点質問させていただきます。資料1の3枚目「4事業の状況(類似団体との比較)」のレーダーチャートについて、いくつか指標が載っていますが、先ほど説明のあった別紙2の管理指標案には「施設利用率」と「管路経年化率」はありません。レーダーチャートと管理指標の整合性について教えてくださいいただけますでしょうか。

事務局 ご指摘いただきました「施設利用率」とは、施設の能力に対して1日平均配水量の割合を示すもので、水道施設の効率性を表す指標です。従いまして、施設規模は大きいが使っている部分は少ないなどの過大な余剰がないか、現有資産を有効活用できているかを見ることができ、本市は80%程度と効率的に活用できているとの認識です。現在、水道施設の再構築を進めていますが、近いうちに水需要が大きく減少することは想定しておらず、ビジョンの中で施設利用率を管理指標とする事業や取組は無い状況から、管理指標に設定しておりません。一方、レーダーチャートの項目に施設利用率を採用した理由としましては、日本水道協会により制定され全国の水道事業体を対象にした「水道事業ガイドライン」による業務指標(PI=Performance Indicator)というものを活用し、民間ではKPI(Key Performance Indicator)に相当するものですが、全国に1,400ほどある水道事業体共通の算出

方法によって出された数値であるため、俯瞰的な施設状況について他事業者と比較がしやすく、わかりやすいと考えたことによるものです。また、先ほどご意見をいただきましたように、各取組に対してより詳細に管理指標を設定することが現場サイドにおいても分かりやすいとの考えもございますので、素案作成に当たりまして議論を進めていくほか、「安全」「強靱」「持続」「地域」の4つの基本方針全体を通じて、どの指標が1番目指すべきところかという KGI (Key Goal Indicator) の設定も含め今後検討を進めてまいります。

会 長 ありがとうございます。個々の指標について細かく言うつもりはありませんし、先ほどご意見がありましたように全体について検討いただけたらと思いますが、施設利用率は4つの基本方針では「持続」に分類できるかと思います。人口減少により配水量が減少すると率が小さくなるかと思っておりますので、施設の統廃合や他事業者からの受水量を検討する際に役立つ指標になるかと思っております。現状吹田市は人口が増加傾向にあるため、すぐに管理指標として取り上げる必要はないといった考え方もあるかと思っておりますので、整理をしていただけたらと思います。また、先ほどご指摘がありましたように、管路更新率は他事業者より良いものの管路経年化率が悪くもって頑張らないといけないという意味では、管路更新率と管路経年化率ともに重要指標としておくべきという考え方や、管路更新率を重要指標とし、観察する指標として管路経年化率を設定するなど、色々な考え方があるかと思っておりますので、ぜひご検討いただけたらと思います。

私は様々な評価指標の研究をしているので、指標の設定はとても大変だと思います。一般的には、検討すべき指標を列挙し、その中からどういった理由でどれを抽出するかを検討した上で、基準値の設定をしますが、地域の特性や他自治体との比較についても考慮する必要もあるかと思っております。基準値を決めるに当たっては、目指すべき姿やあるべき論から数値を設定し、どのように取り組むかバックカスティング的に設定する方法もあるかと思っておりますが、実際は、予算などの条件からどこまでであれば達成可能か、理想と現実とどの程度のギャップがあるのかフォアキャスト的に考える方法もあるかと思っております。これらを6月まで行うことは大変かと思っておりますが、ご指摘いただいた点は非常に重要だと思いますので、ご検討いただき市民の方に説明できるようになっていただけたらと思います。また、先ほどご説明いただいた、様々な要素を考慮してこうなっているといった内容の「様々な要素」をぜひ言語化、見える化をしていただくと市民の方もわかりやすいかと思っております。

その他、ご質問やご意見はありますでしょうか。

委 員 DX推進についてお伺いします。管理指標にはDX推進に関するものはありませんが、部内で目標値などを設定されているかと思っております。同時に紙媒体をデータ化することによる財政的効果について公表される予定はありますでしょうか。

会 長 DX推進に関して、事務局いかがでしょうか。

事務局 現時点でDX推進に関する具体的な管理指標は持ちあわせておりません。一例として、施設の点検にICTを活用し得られたデータを水道部内のシステムと連携させることも考えられますが、DXについてはこの他にも様々な業務と関連すると考えておりますので、管理指標として定量的に表すことができるのか今後検討を進めてまいります。DX推進に関する具体的な管理指標について何かアドバイスがありましたら、ご意見をいただければと思います。

委 員 管理指標がどのように作成されるか詳しく存じ上げませんが、先ほど紙をデータ化するという説明がありましたので、進捗や経費削減効果についてとりまとめをし、公表されているのかと思い質問させていただきました。これらが示されるだけでも理解につながると思います。

事務局 紙の削減につきましては市全体で取り組んでおり、削減数や削減率といった数値を管理しております。これらがビジョンの管理指標として適正かどうかについても検討させていただきます。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

会 長 自治体によってはDXという言葉が先行し、紙をデータ化さえすれば良いという風潮が見られることは否定できないと思います。しかし、DX推進はあくまでも業務の効率化を目的としていると思いますので、どのような効率化を図りたいのか、あるいは図ることができるのかという目的意識を持って、具体的な取組を考えていただく必要があると思いますが、この点について事務局いかがでしょうか。

部 長 料金に係る申込データ等をシステムに移す作業にRPAを活用するなど、少しずつデジタル技術の導入を進めていますが、一気に効率化を図ることは難しいと考えています。近年は建設現場等でのオートメーション化といった技術も進んでおり、展示会や研究会も開催されていることから積極的に参加し情報収集に努めております。近隣事業者の状況、初期投資額、トータルの費用対効果、また先ほどお話がありました労働人口減少など様々な要素を考慮して判断をしていく必要があると考えております。

事務局 水道部として取り組んでいる内容ではありませんが、工事におけるデジタル技術の活用事例を紹介させていただきます。工事の完成図書などの資料を受注者が作成するのに時間を要するため、市職員が資料を確認するまでに時間差が生じている状況ですが、受注者がスマートフォンを使用して工事の進捗状況を入力し、サーバー経由で市職員がすぐにその情報を確認できるシステムがあります。これはダクタイトル鉄管協会が推奨しているシステムで、受注者の負担軽減のほか市としても工事監理がしやすいといった利点につながりますので、どんどん使っていただきたいと受注者に案内しているところ

です。今後、このようなシステムが更に普及することで、受注者、発注者ともにより効率的に業務ができると考えております。

副会長 先ほどからお話がありますように、DX推進は水道界だけではなく日本全体で取り組まれています。別紙3の右側の水色の部分に「その他、環境対策、施設台帳のDXなど」と具体的な事例が記載されているほか、工事の事例を紹介いただきましたが、民間の技術開発に注目し導入していくことが大事ではないかと思います。管理指標として具体的な数字で表すことはなかなか難しいと思いますが、労働人口減少の補完という意味でもDX推進は必要になってくると思いますので、「持続」に加えていただくことも考えられるかと思います。

事務局 DXについて様々な取組をした上で効果検証をきちんとできるような形でお示しできないかご意見をいただきました。一例として、大阪広域水道企業団からの受水量を調整する業務へのAI導入を検討しておりますが、この他の取組もチャレンジとして実施する研究段階であるものが多いことから、管理指標として定量的に評価することは難しいと考えております。今後のアクションプラン作成時には、様々な取組においてデジタル技術の導入や活用を検討してまいります。進捗管理については、年次的に各取組の到達目標を設定し、年次的に振り返ることを考えておりますが、定量的な評価については素案の作成時に再度検討させていただきます。

会長 先ほどご回答いただきました苦情件数はそれほど多くはないと思いますが、苦情対応では大規模言語モデル(LLM)を活用して対応のベースを作ることで業務を簡易化し、また新しい職員の方もそれをうまく活用することで苦情対応ができるようになるといった事例もあるかと思います。また、「AIを使って」という言葉をよく聞きますが、過去の漏水箇所をAIに学習させ、管路の布設環境や経年変化、管材などの情報から導き出した漏水率を基に更新計画を立てている自治体もあると思います。業務量軽減やコスト減のほか、先ほどお話があったような優先順位を設定する際の検討材料に使うなど、目的に応じて様々な使い方ができると思います。先ほど部長から説明がありましたように、今は情報収集や勉強をしているとのことですが、時代とともにデジタル技術が更に普及すると思いますので、活用していただけたらと思います。

他にご質問やご意見はありますでしょうか。

委員 先ほどお話があった資料1の2枚目のレーダーチャートは、類似団体と比較した際の評価だと思いますが、次ページの「これまでの取組と評価」のA・B・C・Dの4段階評価は、類似団体との比較ではなく、吹田市の自己評価だと思います。客観的数値を用いた評価の後にすぐ主観的評価のページがあるこ

とや、パッと見たときにどちらの視点で評価をしているのかが少し分かりにくく、理解の齟齬が生まれるのではないかと思いますので意見させていただきました。

事務局 ご指摘いただきました箇所のほか、その他の部分につきましても、一目で見てわかりやすくなるように工夫をして素案作成をしております。

会長 他にご意見やご質問はありますでしょうか。無いようでしたら本案件についてはここまでとさせていただきます。最後に事務局より何か連絡事項などはありますでしょうか。

事務局 (事務連絡)

会長 それでは、これで本日の会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。